



地域の環境の保全・向上(生態系保全)

平地農業地域

おおはしちく

くるめし

大橋地区農地・水・環境保安全管理協定運営委員会(福岡県久留米市)

- 本地域は、地元の町おこし団体「かわせみ塾」を中心として、地域内のハツ江川に生息するゲンジボタルの生態系保全活動を実施。しかし、ボランティア活動であったこともあり、活動規模が小さいという課題を抱えていた。
- このため、多面的機能支払交付金を活用することで、川や水路の清掃活動に参加する人を増やしたり、清掃活動で使用する道具等を充実させた。その結果、ゲンジボタルの個体数が増加し、毎年5月の蛍の鑑賞会に訪れる人が増えた。また、地元の小中学生に対して蛍の生態系保全についての環境学習の機会を提供することで、小中学生の地元の環境保全に対する理解が深まった。

【R3地区概要】

- ・認定農用地面積265ha
(田206ha、畑59ha)
- ・資源量 水路60.8km
農道18.9km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
自治会、土地改良区等
- ・交付金 約18百万円

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、農業や家庭排水が原因で川が汚れ、ゲンジボタルの個体数が減少していた。そこで地域は、この課題を解決するため、地元の町おこし団体「かわせみ塾」を中心に川や周辺水路の清掃活動を行うことでゲンジボタルの生態系の保全を試みる。
- しかし、この活動はボランティアで行われていたこともあり、参加人数が少なく、活動の規模が小さいという課題を抱えていた。



取組内容

- 地元の町おこし団体「かわせみ塾」を中心としてゲンジボタルの生息する川と、その周辺の清掃活動を行う。
- 蛍の鑑賞会に参加した人に、ゲンジボタルの生態系保全についてのチラシを配る。
- 地元の小中学校でゲンジボタルの生態系保全についての環境学習を実施。



「かわせみ塾」との協働による水路清掃活動の様子

取組の効果

- 蛍の生態系保全の活動に参加する人が増加したことや、清掃活動で使用する道具等が充実したことで活動の規模が拡大し、ゲンジボタルの個体数も増加した。
- ゲンジボタルの個体数が増加したため、蛍の鑑賞会に参加する人も増え、他の地域から訪れる人もいた。
- 環境学習を通じて、地元の小中学生の環境保全に対する理解が深まった。

蛍の鑑賞会の様子

